

平成27年度 学校評価実施報告書

京都市立桂川中学校

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価日	評価者(いずれかに○)	
1 確かな学力	学力向上を通して、豊かな人間性の育成	各教科での基礎基本の徹底と言語活動の更なる充実、読書指導の充実	・学力状況調査の結果 ・学習確認プログラム	・昨年度を上回る結果。 ・1年生の英語が低。2 「あてはまる」との回答 はが90%超。	⇒	・言語活動を意図した授業展開の充実が学力状況調査の結果に表れた。 ・「目標」「振り返り」が徹底できていない。 ・通級指導員・支援員・教科担当との連携が図られている。	・校内研修の更なる充実と教科会を有効に活用した授業改善に取り組む。 ・教科会を定期的にもち、相互の授業を高め合う。 ・授業参観や公開授業週間等の広報を工夫し保護者の授業参観の機会を増やす。	⇒	・10月の学校祭も生徒の頑張る姿が感じられた。 ・土曜学習や放課後の長期休業中の補習は支援員等の活用はないのか。 ・学力に課題のある生徒への対策。
	授業改善(楽しくわかる授業の工夫と実践)	研究部と教科会の連携による取組の充実、研究授業・公開授業週間。	・わかりやすい授業ができるか。 ・研究授業の実施状況	「あてはまる」との回答 はが90%超。		⇒	・家庭学習に取り組める手立てを考えてはどうか。 ・土曜学習や各種学習会に地域ボランティアを活用しても良いのでは。地域に募る際は、学校運営協議会も協力できる。		
	LD等支援を必要とする生徒への指導体制の充実	通級指導教員・支援員・教科担当との連携	・焦点化した生徒(支援を必要とする生徒)の学習に取り組む様子や	落ち着いて授業に臨める生徒が増加。多くが支援を素直に受ける。		⇒	⇒	⇒	
2 豊かな心	いじめのない人権尊重の集団づくり	道徳教育や学級活動の充実	・桂川中学校は楽しい学校になっているか。 ・道徳の実施の状況	「あてはまる」との回答 は90%超。指導計画を作り直し計画的に実	⇒	・年間指導計画を見直し、すべての学年で道徳を計画的に取り組むことができた。 ・個々の生徒がもつ課題の共有ができた。 ・生徒会活動や学校行事の充実が生徒の自己有用感体得につながっている。 3年生がよき手本となって	・次年度は道徳の副読本を活用する。 ・今後も、きめ細やかな指導をしていくため、家庭訪問等を通じて保護者との連携を更に密にする。 ・行事が生徒の自尊感情の高まりに結びつける。	⇒	・学校の地道な取組の成果が、学校の落ち着きにつながっていると感じる。
	生徒・保護者へのきめ細やかな対応	教育相談の充実 SCとの連携 家庭訪問の実践	・相談できる教職員がいるか。	「あてはまる」との回答 は保護者より生徒の回答結果が上回る。		⇒	⇒	⇒	・あいさつは小学校でも重点をおき指導をしているので、合同での取組も考えてみてはどうか。 ・今後も学校の応援団として、地域の声にも対応していく。
	協働作業・自治活動によるしなやか心の育成	・生徒会活動を通して自治活動の充実 ・学校行事の活用	・ルールや規則を守ることは大切だと思うか。 ・学校行事の充実。	「思う」と答える生徒は90%。学校祭を通して自己肯定感が身につい		⇒	⇒	⇒	⇒
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	生徒会活動と保健指導の連携による取組の充実	・生活ルーチンや毎朝の健康観察の結果 ・委員会活動の実施状況	学年が上がるにしたがって課題がある。	⇒	・生活点検や状況調査の有効な活用法を検討していく。 ・各顧問が、部活動の意義や目的を共通理解し取り組む。	・点検や調査後の事後指導の見直しが必要。 ・運動強度や時間など健康面も配慮した部活動運営。 ・競技力や体力向上だけなく、社会性の育成を目的	⇒	・朝食や睡眠時間は家庭の責任が大きい。小中で連携して取り組んでいかなければならない。 ・部活動は生徒たちの大きな楽しみ。
	健やかな心身の成長	運動部活動指導の充実 安全・健康教育の実践	・運動部活動への加入率 ・安全や健康に関する	加入率増加80%。保健指導・避難訓練が計画的に取り組めた。		⇒	⇒	⇒	・地生連や少年補導の会合などを活用して、地域でも家庭の協力を訴えていく。
4 独自の取組	小中一貫教育の推進	小中合同授業研修会の実施と協議会の充実 授業・部活動体験の実施	・小中一貫連携会議や合同研修会の実施状況	定期的に連会議をもち、10月に合同研修実施。	⇒	・小学生の部活動や授業体験は有効である。また、地域行事での交流も小中連携につながっている。 ・地域行事への生徒の参加は良き伝統となっている。	・小学校の保護者にも進路についての情報を伝える。 ・年1回の小中合同研修会のほかに、授業(教科や道徳)見学を行う。	⇒	・小中の先生方も仲が良くこれからますます連携が進むことを願う。 ・地域行事へはこれからも中学生に参加してもらいたい。 ・中学生の参加で成り立っている地域行事である。
	地域との結びつきを大切にした取組の充実	クリーンキャンペーン・ふれあい祭等地域行事へのボランティア参加	・地域行事への参加状況	積極的に参加する生徒が多く、地域の方々との交流の機会となって		⇒	⇒	⇒	・小中学生が合同で取り組める教育活動を増やしてはどうか。 ・参観者が少ないとだが、学校祭は非常に多くの参観があるので、学校や子どもへの関心や期待は大きいと思う。
	情報発信と充実	ホームページの積極的に活用した情報発信	・「フリードム、HPを苦みらず校情報やお知らせは家庭に行き届いているか	「あてはまる」との回答 が80%超。生徒がプリントを渡せてないことが		⇒	⇒	⇒	⇒

総括・次年度の課題

- ・「確かな学力」「豊かな心」「健やから体」の育成に向けての取組による成果については、着実に実をむしんでいると評価いただいている。授業改善と同時に継続した家庭学習を定着させるための工夫が必要である。
- ・中学生が地域行事に積極的に参加し取り組むことで、生徒自身の成就感や自尊心の高まりにつながっている。次年度は、全教職員で「道徳」に取り組む体制づくりと方策を工夫する。
- ・教科指導と道徳教育を中心、小中一貫教育に関する取組をさらに充実させる。
- ・保護者の授業参観機会を増やし、開かれた学校づくりと同時に「教科指導力向上」も意図して取り組みたたい。